

# 資料

## 1. 意見交換会で出された意見

### (1) 開催日程・参加人数

No.	日時	会場	対象
1	8/23(水)18:30～	まちきた大通ビル 7階H会議室	障害福祉サービス事業者
2	8/24(木)18:30～	北見市総合福祉会館 体育集会室	障がい福祉団体
3	8/30(水)14:00～	北見市総合福祉会館 2階研修室	障がい福祉団体
4	8/31(木)18:30～	北見市総合福祉会館 体育集会室	障害児通所支援事業者、学校、幼稚園、保育所
5	9/1(金)14:00～	留辺蘂総合支所 1階会議室	障がい福祉団体ほか
6	9/5(火)14:00～	端野総合支所 1階会議室1	障がい福祉団体ほか
7	9/6(水)14:00～	常呂総合支所 1階第1応接室	障がい福祉団体ほか

参加者 82人  
参加委員 12人  
合計 94人

### (2) 意見交換会で出された主な内容

分類	意見交換会で出された意見
障害福祉サービス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○移動支援等をもっと使いやすくしてほしい。</li> <li>○現状、サービスは足りているという認識でいる。A型事業所を利用している方のなかで、一般就労を実際に出来そうな方というのは半数も居ないように思う。特に精神障がいのある人は気分の浮き沈みが激しく、一般就労は難しい様子。</li> <li>○24時間対応でない外部利用型グループホームでのトラブルはある。体験入所から半年部屋を空けておいてほしいとの要望には応えられない。</li> <li>○サービス利用をしていない人を面的にサポートできる場を作れないか。</li> <li>○札幌市では困難事例担当者を設けたとのこと。もっと踏み込んで皆でやる体制を整えて欲しい。札幌市のように担当者を配置するということは容易ではないと分かってはいるが、地域の力そのものとなり得るので何とか検討してほしい。</li> </ul>
人材	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業所の人材確保について。北見市は重度の発達障がいのある人への対応に弱い。行動援護について平成30年度までに研修を受けなければならない。研修事業を行うには、30人以上の受講者が必要。</li> <li>○男性ホームヘルパーの採用を増やしてほしい。女性だと高いところの作業ができず、してもらいたいことができない。</li> <li>○障がいのある子どものサービスに関して、現場では相談件数が増加している。検査を行うには専門性があり、スタッフ不足の問題は切り離せない。小学校でも平成30年以降に予定されている障がいの教育支援計画にも大きく関わってくる内容である。小学校から中学校へ入学する際にどう支援</li> </ul>

分 類	意見交換会で出された意見
	<p>を繋げていくかという課題がある。きりりからは引き継ぎがなされ情報が入ってはくるものの、時間がかかっている状態。入学してから数か月後に情報が入ることもあり、繋ぎ方はどうにかならないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ふるさと納税の寄付金を事業所に是非欲しい。佐賀県の例では、公募のうえプロポーザルで、市の意図するクオリティに達している優良事業所を選定し、寄付金を利用できるというものがあり、上手くいっているように感じた。寄付金がもらえたら、職員のやる気等にも繋がるので検討いただきたい。</li> <li>○昭和63年頃より障がいのある子もない子も皆一緒に保育する動きがあった。特別に支援を要する子を親の支援も含めて行っている。親からの要望で多いものとして、我が子に発達障がいの疑いがある場合に児童相談所に電話するが大変混みあっていて、判定には半年から1年以上待たなくてはならないと告げられる。それまでの間どうしたら良いのか。また、病院は満員で新規は受け入れられないとの返答が多い。これだけ需要が多いなか、スタッフ不足は顕著な問題。しかしながら無資格のスタッフ等を起用するなどされては困る。有資格者がデイサービス支援をするなど、障がいに深い理解のある方にやって欲しいという声が沢山ある。</li> <li>○4月に児童発達支援管理責任者の資格を取得した。基準としての有資格者を増やすという国の動きがある。繋ぎ方の問題についても学校、相談支援事業所、保護者のそれぞれの連携が必要なので、会議を行うなどしている。支援学校とは年2回の会議を開催しており、共通認識の面において多いに役立っている。とても良いものとして認識しているが、会議をしなくてはならないという決まりも罰則もないので広がっていない。</li> <li>○情報誌を活用するなどして求人をしている。退職した人にもカムバックを求める。資格持っている人がいない訳ではないけれど、少なくて圧倒的に足りない。</li> </ul>
親亡き後	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グループホーム入居者で、稼ぐ手立てがない中で、親も高齢となって将来が大変不安。どうしたら良いのかと考えているがなかなか難しい。</li> <li>○ヘルパーに当事者の意見を聞いてもらったところ、今は親が近くにいるが、金銭管理を含めた将来の暮らしが不安との意見があった。</li> </ul>
共生社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「いきいきふれあいサロン事業」などでサロンが31か所あるが、社会福祉協議会で居場所をつくるのではなく、地域住民が自ら組織をつくり居場所づくりや介護予防といった取り組みを進めている。また、障がいのある子どもやその親向けへのサロンなども形成してきている。社会福祉協議会としても北見市と一体となって共生社会の実現を目指して取り組みを進めていきたい。</li> <li>○障害者支援施設から高齢者施設に移ることについて、利用者に尋ねても、見てみないと分からないとの答えが多い。 留辺蘂自治区には居宅介護などが少なく困っている。外出支援もない。身内に障がいのある人が多くないので、権利擁護への理解推進が必要。 災害があった際、地域の障がいのある人は誰からも連絡が来ない。障がいのある人専用の災害時援護者台帳つくるべきではないか。</li> <li>○常呂自治区での障がいのある人の活動状況は、社会福祉協議会で2～3名が給食の牛乳パックのリサイクル活動をしており、1回に370円程度で売却している。若いボランティアの方が手伝っている。</li> <li>○障がいのある人のサークルがいこいの家の清掃を実施している。</li> <li>○常呂自治区では障がいのある人の数が少ないと思われ、事業所を実施しても採算が合わない。また通いの際の移動手段の確保が課題となる。</li> <li>○当事者ニーズを基に、常呂自治区の特殊事情を考慮した対策が必要。</li> </ul>

分 類	意見交換会で出された意見
医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療的ケアを実施している事業所は少なく、北見市では6件。実際に稼働しているところは4件である。オホーツク管内で捉えても網走は0件と危機的状況。気管切開者などが増加傾向にある現在、需要は非常に高いと思われる。要請を受けるが対応に限界がある。実際に行っても加算額が低く、1日に何度もたん吸引したり、様子を見に行き、且つ命を扱うところに責任の重さとリスクがある。これではとても収益があがらないため、実施する事業所が少ないのは、おのずの結果。サービスを提供しなければ、利用者の選択肢が入院生活の継続しなくなるため、ボランティア状態で引き受けている実態がある。</li> <li>○道東に療育センターがなぜ無いのか。道東には圧倒的にそういった機関が足りない。今ある療育のスキルを上げるばかりではなく、専門の医師を常駐させるなどそういったことを目指してもらいたい。</li> <li>○医療的ケアを行っているところが管内でも4件しかない。地方からたくさんのお問合せを受けるが実際にやっているところがなく困っている。重症心身障がい児・者の介護はほとんど家族が付いて行っている。医療的ケアを提供するための研修費の助成制度を設けられないか。</li> </ul>
発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> <li>○療育体制の充実とあるが、現在発達障がいのある人たちは大体市外の病院にかかっている。本人や家族の負担を考えると市内にほしい。</li> <li>○サービス支援者は女性が多く、余暇活動でプールなど利用しても男児だと着替えが困る。母親が手伝おうにも更衣室が男女で別れており手伝えない。賃金を上げるなどして男性の支援員を増やしてほしい。また、自閉症のある人たち向けの静かなイベントを企画してほしい。</li> <li>○発達に心配があり、児童相談所で判定され、きらりなどに通所している子もいるが、保護者の都合もありその子に合った通所が受けられないという現状が増えてきている。その子が就学し教育委員会や学校と打ち合わせをするも、そこからはお任せなので、ちゃんと繋がっていきけるか心配。また通所に至っても保護者の仕事が忙しく送迎ができず通えない。就学後に登校拒否になるケースもある。</li> <li>○乳幼児健康診査に行かない人もいる。就学時に引継書があるといい。</li> </ul>
難病	<ul style="list-style-type: none"> <li>○難病患者に対しての位置づけをしっかりとしてほしい。</li> </ul>
障がいのある子ども	<ul style="list-style-type: none"> <li>○推進項目3の「障がいのある子どもの健やかな育成のための支援」について、成長に合わせた切れ目のない支援の推進施策とあるが、きらりを利用している子どもが就学した際、支援が受けられなくなってしまい困っている。学校と親の間に入って相談支援してくれるところはあるのだろうか。</li> <li>○計画はどれも素晴らしいものであるが、なかなか実現されず、現場で障がいのある子どもたちが、友だちにも先生にも理解されず苦しんでいる。先生と意思疎通がうまくいかず不登校寸前の子どもたちもいる。建前と本音がかげ離れており療育と教育を別のものと考え、本人に合った学校教育を行わない学校もある。子どもたちのためにも福祉と学校で連携してほしい。</li> <li>○幼稚園児の事例として、上の子が健常・下の子が障がいのある子どもという例では上の子が下の子のお世話をするようになったり、周りの子供たちも手助けするようになるということがあり、成長には良い影響もある。母親は心配され、我が子が上手く集団生活をやっていけるのかと悩んでいる。他の子と比べたりもする。親の支援の方が困難である。良い繋げ方を考えて小学校へ繋げていきたいと幼稚園側としても考えている。また、卒業後の事例も気になるので、小学校からも引き続き情報提供願いたい。</li> <li>○我が園では小学校に対して、入学時に引き継ぎをしている。環境の変化から、人間関係や行動パターンが今までと異なったりもする。幼稚園児の頃は全く問題なかった子でも、環境の変化や成長過程において予期せぬ現象が初めて起こる子もある。保護者側からすれば「今まではそんなことなかったのに、何がいけなかったのでしょうか」と気にする。様々な機関で協力し支えていく基盤づくりが最も重要ではないかと考える。</li> </ul>

分 類	意見交換会で出された意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 万能マニュアルなど存在しないのでケースバイケースで対応している現状がある。幼稚園から小学校への引き継ぎの仕組みはないのか。</li> <li>○ 先生方は幼少からなんとか引き継いでいこうとしている。市からも協力があれば良いのだが、なかなか頂けない現状。小学校1年生でやっと開始している。ここ数年はこのような対応によって中学校への引き継ぎに役立つようになった。例えばきらりに通っていた子は、障がいの受け入れが済んでいるため介入しやすい。障がいを受容しにくい親も多く見受けられる。きらり等を活用した相談者がもっと増えればよいと考える。子の様子を見てみると心配になる点がいくつかあることを親に伝え、一度相談してみても、いかがですかと提案・案内しても、そう聞いただけで少し立腹されたり、「もういいです」とびしゃりと言い放たれてしまったこともあり、支援が進められない場合もある。</li> <li>○ 生後2、3か月の小さなお子さんが健診を受け、障がいの疑いについて経過観察していくケースや、親の心配により相談があり支援に繋がるケースなどがある。最近増えてきたと感じているのは言葉の遅れによるもの。2、3歳児やそれ未満に多い。親も他の子と比べて心配するケースが多発している。保育園・幼稚園の時代に重要なことは沢山の集団での生活の中で、担任の先生など、特定の大人との信頼関係を築き、子の特性や性格をしっかり理解して教育することだと思う。ただ、必要な時に必要な場を利用するという受入体制が整えば良いと思う。小さい子ほど受け入れられるもので、子の成長というところは日々感じている。</li> <li>○ 幼少期に障がいを見つけ、保護者の理解も得たうえで支援につなげることが大切。</li> </ul>
教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 北見支援学校とは繋ぎの連携がしやすい。各小学校とも連携していくことが重要なので横の繋がり強化に努め、充実させてほしい。</li> <li>○ 北見支援学校側としても連携したいという気持ちではいるが、スタッフが不足している。普通学校はなんとか一般就労してほしいという願いが多い。親としても一般就労に結びつけて将来の不安軽減につなげたい様子。その普通学校に行かせるために、学力をつけさせることに執着する動きもあり、親の思いとの板挟みにあうこともしばしばあるため、連携などは後回しになってしまう。就労までスムーズに行った実績等が沢山増えれば親も先の見通しが出来て安心するのではないか。高校で支援が途切れて引きこもりに至る事例などを知っている親としては、何とか我が子は普通に暮らしてほしいと考えている。道筋を見せてあげることも大切なのでは。</li> <li>○ 普通高等学校の先生は障がいへのノウハウに乏しい。これにより中学校へ頼ったり、連携を欲している状況があるため、地域の役割は益々大きくなっていく。国や道でも障がいのある子もない子も一緒に生活することを目指している。僕らが子どもたちから学ぶ時代になってきたと感じている。</li> <li>○ 教育委員会もリレーファイルが必要だと思う。実際に診断を受けている子は作っているけれど、診断を受けていないが支援が必要な子どもが難しい。個人情報問題もあるが、できるのであれば学校との連携の中で積極的に情報公開していった方がよい。中学校から高校で繋がらず、高校を卒業してからどうするのか。そういった壁に当たる。福祉につなげる必要がある。</li> <li>○ 繋ぎの支援ファイルの例としてスクラムがある。旭川市で作成されたもので、札幌市、釧路市と少しずつ広まってきている。北見市でもぜひ作成してほしい。</li> </ul>
就労支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ B型事業所からA型事業所に移行した方が1人と、一般就労に移行した人が2人いる。3人が移行してからも心配もあって、就職先等には月に1回程度訪問し様子を見ている。A型事業所とはあまり連携が上手くいっていないところが感じられ、訪問しにくい。一般就労はB型事業所より給与面では大幅に増加するため、本人の満足そうな印象を得た。時間調整をするなど工夫してもらって働いている現状等を思慮すると、自分たちスタッフがしてきたB型就労での支援の無力さを感じた。</li> </ul>

分類	意見交換会で出された意見
	<p>○行政はどうしても障がいの相談を待ちの姿勢になっている。もっと行政の方から積極的に入っていき、それにより色々な意見が日常的に聞け、またコミュニケーションが取れる。福祉的就労の工賃の目標が3万円であり、現在が1万7、8千円。着実に増えてきてはいるが行政ではどのような取り組みで上げてきているのか、時間の経過による自然な上昇と感じられる。もっと工賃向上を目指してほしい。</p>
障がいに対する理解	<p>○推進項目5に「障がいに対する理解や配慮の促進」とあるが北見市の動きがあまり感じられない。北見市中心で促進を目指しているのか、事業所と連携して理解を広めていこうとしているのか、見えてこない。</p> <p>○他の市町村では、小中学校の頃から学校に障がいのある人を呼んで普段どのように生活しているのか聞いたり、触れ合うといったことをしている。それによって社会に出たときに、障がいのある人に出会ったときどう対応するかがわかる。</p> <p>○市職員に手話を覚えていただきたい。せめて挨拶程度はできるようにしてほしい。</p> <p>○窓口で担当する職員は名乗ってほしい。自分は視覚障がいがあるので誰が対応しているかわからないし、自分の名前は知られているのに相手はわからないのは不安になる。</p> <p>○北見ろうあ福祉協会に入会していない聴覚障がいのある人が多数おり、学習サークルや交流会があることを知らない人が多いと思うので、周知を図ってほしい。</p> <p>○行政が窓口などで関係書類を配布する際に、障がいのある人の団体の活動について、簡潔な説明などするよう北海道から文書通知があったと思う。それを踏まえて、北見市で団体の周知をお願いしたい。</p> <p>○障がいある人の数と団体に加入している会員の数に隔たりがある。役員になった当初は会員数を増やそうと頑張ってみたが、市の窓口では個人情報保護の観点からどこに障がいのある方がどこに住んでいるか情報提供を受けることができない。会員数が少ないと団体としての活動もままならないので非常に困っている。</p> <p>○団体としては人数が少ないと活動が難しい。会員の数が多ければ収入を得る様な活動も可能だが現状は厳しい。障がいのある子どもの育成について基本目標に掲げているが、団体として責任をもって関わっていく必要はないのか。</p> <p>○病院でバイブなど取り入れてほしい。病院で待っている際に電光掲示板を見てはいるもののやはり見逃してしまうときがある。バイブなら順番が着たら今までよりは気づける。</p> <p>○聴覚障がいのある人は唇の動きから言葉を読み取るが、バスの運転手等がマスクをしていて読み取ることができない場合がある。</p>
コミュニケーション	<p>○聴覚障がいのある人が避難所などに行ったときに、合理的配慮が足りず、実際に避難所に行った聴覚障がいのある人はやはりコミュニケーションがうまく取れず不便を感じている。目に見えない障がいに対する配慮をしてほしい。福祉の面と災害の部分での結びつきを考えて計画を立ててほしい。</p> <p>○点字ポスターを増やしてほしい</p>
バリアフリー	<p>○聴覚障がいのある人が、将来高齢になったときに生涯ゆったり暮らせるような専用の施設を作してほしい。</p>
防災	<p>○災害時に医療機関が被害を受けてしまい透析を受けられない状況になったときの市での支援を考えてほしい。</p> <p>○災害時において、透析患者の中でも、すぐに透析が必要な人もいれば、一般と同じ避難所でも大丈夫な人がいるのでそこを市は見極めていかねばならない。</p>